sento&
neighborhood
journal

TSURUNOYU

せんとうとまち新聞

北区の
記憶あつめ編
Vol.3
鶴の湯

About

この事業は「北区政策提案協働事業」として、一般社団法人せんとうとまちが北区と協働し、令和5年度から3カ年計画で、北区の現役銭湯全23軒（令和5年現在）をめぐります。
銭湯と周辺のまちの歴史や物語を聞き取り、広く共有してくことで、多世代間の交流を促し、地域のコミュニティ再生へとつなげることを目指しています。

CONTENTS　鶴の湯紹介／記憶地図／住民かく語りき

多趣味な一家のおもてなし精神に満ちた憩いの銭湯

昭和の懐かしい風情に佇む鶴の湯

都電の滝野川一丁目駅にほど近い閑静な住宅街の一角にある鶴の湯。創業は第二次世界大戦後間もなくで、創業者の苗字が鶴見だったことから「鶴の湯」と名付けられた。その後、石川県小松市にルーツを持つ田畑家が経営を受け継ぎ、1959年に現在の地で営業を開始。1966年に建物を新築してからは、内装に何度か手を入れたり、26年前にサウナを設置したりしたものの、大きな改装は行っていないという。「柱時計とか大きな扇風機とかはなくなっちゃったけど、模様が入ったすりガラスなんかは昔のままですよ」と3代目女将の田畑悦子さん。化粧室スペースに残されたかわいいタイルなど、随所に昭和の懐かしい風情が漂う。

懐かしのお釜型ドライヤー。

現在、鶴の湯を切り盛りしているのは悦子さんと4代目の田畑公嗣さん夫婦、そして本業の合間に手伝いに来る悦子さんの娘さん。3代目店主のモットーである「清潔感を大切すること」はしっかりと受け継がれている。事実、いつ来ても風呂場もサウナも脱衣所もピカピカ、居心地は最高だ。田畑さん一家の日々の手入れの賜物だ。

肝心の風呂にも抜かりはない。風呂のお湯はすべて井戸水で、水質がやわらかいと評判。「なかにはペットボトルにお水を入れて持って帰る人もいるくらい。『お花にあげると元気になる』と言ってくれる人もいる」そうだ。風呂の種類がラジウム泉、バイブラバス、エステジェットと多彩なのもうれしい。なかでもユニークなのはラジウム泉。「昔仕入れたラジウム鉱石を入れている。だいぶ古いものだから効果はあまりないかもしれないが、今もこれを楽しみに来てくれる人がいる」と悦子さんは微笑む。

清潔感溢れる洗い場。

随所に光るおもてなしの精神

1970年代頃までは周囲に風呂なしアパートが多かったこともあり、もともとはお客の大半が近隣住民だったが、今はサウナブームの影響で遠方からも多くの人たちが訪れている。「サウナは昔から90℃という熱めの温度設定が評判だったけど、ここまで流行るようになるとはね」と公嗣さん。しかも、価格は2時間100円と格安、サウナを目当てに訪れるお客が多いのもうなずける。

鶴の湯には風呂やサウナ以外にも他にはない癒しがある。悦子さんが専用のスペースで、大切に育てている胡蝶蘭や月下美人といった花々だ。カウンターや脱衣所など、季節に応じて至る所に可憐な花が並び、お客の心を癒し続けている。なかでも月下美人は1年に1晩しか咲かない貴重な花とあって、その開花を目がけて来るお客さんもいるとか。

その他の展示物も個性的だ。例えば玄関付近に飾られているオークランド・アスレチックス時代の松井秀樹のユニフォームは、悦子さんが石川県人会のくじ引きで引き当てたものだとか。さらに、ガラスケースに入ったプラモデルは、公嗣さんが丹精込めて組み立てと塗装を手掛けたもので、プロ顔負けの仕上がりだ。

脱衣所に飾られた悦子さんが育てる胡蝶蘭。

異彩を放つ田畑一家の新しい銭湯の可能性

聞けば聞くほどに多趣味なご一家だが、実は公嗣さんはもともとギタリストで、悦子さんはウクレレを趣味にしているという。いずれは銭湯を舞台にちょっとしたライブやセッションが開催される日がくるかもしれない。おもてなし精神に満ちた田畑一家が営む鶴の湯からは「コミュニティとしての銭湯」の可能性がひしひしと伝わってくる。

左から公嗣さん、悦子さん。

せんとう情報　SENTO DATA

鶴の湯

鶴の湯　東京都北区滝野川1−18−8　都電荒川線「滝野川一丁目駅」から徒歩2分
15：00−24：00　日曜日は14：00から営業　定休日：金曜日

フロント　薬湯　サウナ　水風呂　ランドリー

Photo / Mari Okamoto

※「記憶地図」は、一部ご近所の皆さまの記憶や思い出を元に作成しています。事実と異なる表記があるかもしれませんが、ご了承ください。

記憶地図

鶴の湯編

ワークショップや近隣住民の方へのインタビューを通して見えてきたまちの記憶地図。かつての銭湯界隈のあたたかいまちの風景を想像しながら、湯上りに歩いてみましょう！

◉ 現在も営業中　● 閉店

都電荒川線 1978年の花電車

提供：小川純司

滝三通り商店街

滝野川第三小学校前の商店街なので「滝三通り商店街」
かつては商店が軒を連ね、鮮魚以外は生活に必要なものが何でもここで揃ったという。競争横丁が近いので鮮魚はそちらで購入する人が多かったようだ。

提供：北区飛鳥山博物館

小川木材商店/ゆるCafe&木づかい工房木楽楽

住宅や店舗の建築工事を手掛ける小川木材商店が、木のぬくもりをより身近に実感してもらえる空間としてオープンしたカフェ。こだわりの空間とオートミールスイーツを楽しめる。

田中青果店

戦後から2003年～2004年頃までこの場所で八百屋を営んできた田中青果店。
元店主の田中さんご自身が鶴の湯の長年の常連さん。
田中青果店で野菜と一緒に売られていたきゅうりの糠漬けを銭湯の帰りに買って帰るのが日課だったと言う方も。

鶴の湯

3代目女将さんが育てている植物が入り口にも脱衣場にも洗い場にも並ぶ。
「こどもの日には菖蒲湯と一緒にヤクルトをいつも用意してくれているのが嬉しい」、と常連客。

提供：田畑公嗣

キャバレー

昔、王子駅前にはキャバレーが多数あり、そこに勤める方々がよく早めの時間に鶴の湯に来て身支度をして出勤していたとか。

田村豆腐店→炭火串焼まる和

もともとは同じ場所で豆腐屋を営んでおり、代替わりして現在は焼き鳥屋さんに。
焼き鳥がおいしいのはもちろん、豆腐をはじめとしたおつまみにもこだわりが光る。

小間物屋

鶴の湯の目の前にはかつて小間物屋さんがあり、そこではシャンプーや石鹸なども売っていたそう。

灯油屋

灯油屋さんが店先で売っていたアイスクリームが幼い頃の思い出の味と話す常連客多数。

住民かく語り

鶴の湯周辺

わたしのせんとうとまち

―北区の記憶あつめVol.3 鶴の湯―

7月21日、記憶集めトークイベントが実施された。これは鶴の湯周辺のかつての写真や地図を見ながら地域の記憶を掘り起こしていこうというものだ。参加したご近所の方々に思い思いに語り合ってもらった。

住宅街の一角に佇む鶴の湯だが、その界隈はかつてどのような様子だったのだろうか。参加者にそう投げかけると、早々に「明治通りにはおもちゃ屋さんがあって、鉄道模型などの品揃えが良かった」「競争横丁（今は路地だが、かつては商店街だった）はいつも大勢の人たちでにぎわっていたけど、なんといっても魚屋さんがえらく印象に残っている」といった思い出話に花が咲いた。また、鶴の湯の周囲にも商店が多く、風呂上がりの楽しみとして「近所の豆腐屋と青果店に寄るのが楽しみだった。特に青果店のきゅうりの糠漬けの味が忘れられない」といった話題も。

昭和の頃の鶴の湯については「赤ん坊の面倒を見てくれる女中さんが2、3人いた」「脱衣所には赤ちゃん用のベッドが10数台あったが、足りない時にはロッカーの上にも寝かせていた」「カランの数は今より多かったけど、それでも数が足りなくて、皆で譲り合って使っていた」とかつてのにぎわいに思いを馳せる声も。そして「大晦日の夜中には、先代の女将さんが『元旦は休みで、今日もそろそろ閉めちゃうよ』と家まで呼びにきた」「子どもが無茶なことをしても、きちんと叱ってくれる人たちがいた。今だと逆に親御さんに怒られちゃいそうで怖いけど」といった具合に、往時のコミュニティの強さがうかがえる話も飛び交った。

また、最近は「フィットネスクラブの帰りに立ち寄る人が増えているみたい」「ご近所の常連さんの数は減少したが、それでも風呂上がりに脱衣所で車座になっておしゃべりに興じている人たちもいる」といった声が上がった。

今回も銭湯とその界隈の今昔の様子がたっぷりと語られた。次回はどんな〝記憶〟が集まるだろうか。

Photo / Mari Okamoto

COMMENT

銭湯全盛期の勢いと「小松会」の思い出
―田畑悦子さん（鶴の湯 3代目女将）

夫と両親が鶴の湯を営むようになる前までは、夫の叔母がこの銭湯を切り盛りしていました。もともと田畑家は石川県小松市で絹織物の機屋を営んでいたんですが、戦後、不景気のあおりを受けて、東京で銭湯経営に挑んでみることになったそうです。叔母は私たちに鶴の湯を譲った後に浅草で銭湯を営んでいましたが、今はもうありません。

振り返ってみると、叔母が鶴の湯を営んでいた頃は、番頭さんや女中さん、三助さんもいて、とてもにぎやかでした。私が田畑家に嫁いだのは1967年ですが、当時はとにかくお客さんが多すぎて、てんやわんやの毎日でしたね。子連れのお客さんもたくさんいて、以前は女中さんがそのフォロー役を務めていたのですが、私が嫁いでからはそのあたりの仕事も担当するようになりました。

ところで、田畑家以外にも小松市から上京して銭湯を営んでいる家はいくつかあって、以前は「小松会」という互助会を組織していました。メンバーは10数人で、皆でお金を工面し合ったり、一緒に飲み会を開いたり、旅行に出掛けたりしていましたね。まさに銭湯の全盛期といった感じで、とても懐かしいです。

発行：一般社団法人 せんとうとまち
代表理事：栗生はるか　理事：サム・ホールデン / 三文字昌也 / 江口晋太朗 / 牧野徹　メンバー：福井彩香 / 渡邊勢士
編集・執筆：熊本鷹一　グラフィック：株式会社PIN DESIGN 菅原悠介 / 岡本茉莉　協力：北区浴場組合 / 森田真央 / キタバ・ランドスケープ東京事務所
北区政策提案協働事業「銭湯を核とした多世代間の地域コミュニティ再生と記憶アーカイブによる歴史的・文化的まちづくり」（担当：北区政策経営部シティプロモーション推進担当課）にて制作。

一般社団法人せんとうとまちは、銭湯とその周辺のまちを共に考え、関係性を編み直しながら、銭湯をめぐる生活文化を再生・活性化していくことを目指しています。

活動支援の協賛・寄付を募集しています
https://bio.site/sentotomachi